

国語 第1学年 かく こと たのしいな

自分の学級に合わせて直すプロンプト

下の枠の文を全部そのままAI（ChatGPT・Claude・Gemini など）に貼り、質問に答えると、この単元の学習指導案が自分の学級に合わせて直ります。枠の後半には、直す対象の学習指導案が入っています。

あなたは小学校国語の授業づくりを手伝う役です。この後に貼る指導案を、私の学級に合わせて書き直してください。最初に、児童の既習事項と今の学習状況、読む・書く・話す・聞く際に必要な配慮、学校の年間計画と使える時間、研究授業で確かめたいこと、使える資料と道具を一項目ずつ質問し、回答を待ってから次へ進んでください。条件がそろったら、次のねらいを保ってください。姿勢や鉛筆の持ち方を確かめ、平仮名を書くための線や字形に親しむ。目標・評価規準・単元計画・本時の活動を対応させ、本文を省略せず書き直してください。教材本文・台詞・挿絵・教科書固有の問題文は転載しないでください。教材名と公式の総時数は出典を照合し、独自の時間配分は授業案として区別してください。人数や分数を事実のように補わず、回答がない条件は未確認としてください。児童の反応は予想と明記してください。三重の指導案の見出し順を保ち、先生向けの文章に内部IDなどを出さないでください。変更箇所と、その根拠となった回答・出典を最後に示してください。直す対象の指導案を以下に貼ります。

———ここから直す対象の学習指導案———

第1学年 国語科学習指導案

1 単元名「かく こと たのしいな」 教材名「かく こと たのしいな」

2 単元の目標

平仮名を読み、書くことができる。〔知識及び技能〕(1)ウ)

姿勢や鉛筆の持ち方を確かめ、平仮名を書くための線や字形に親しむ学習の中で、言葉への関心を持ち、自分の取り組みを見直そうとする。

3 単元の評価規準

〔知識・技能〕①平仮名を読み、書いている。〔知識及び技能〕(1)ウ)

〔思考・判断・表現〕①この教材単独では記録に残す評価を行わず、関連する言語活動の単元で見取る。

〔主体的に学習に取り組む態度〕①姿勢や鉛筆の持ち方を確かめ、平仮名を書くための線や字形に親しむ学習に進んで取り組み、友達の反応や自分の記録を確かめながら、言葉の使い方や捉え方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

姿勢や鉛筆の持ち方を確かめ、平仮名を書くための線や字形に親しむ。この教材では、見本と比べた線や平仮名、書きやすくなった姿勢や道具の記録を残し、言葉をどう使ったか、どう捉えたかが分かるようにする。公式年間計画は知識・技能に重点を置く短い教材としている。本案でも本時は知①を中心に記録し、思考・判断・表現をこの教材だけで独立して評定する扱いにはしない。

(2) 児童について（学級の実態を書く）

(3) 指導について

漢字や片仮名は扱わず、当日の教材の線や平仮名を対象にする。運筆の困難には太い筆記具や補助具を用い、持ち方の外見だけで評価しない。想定する難しさは、見本の始点を見ずに動かす、姿勢を保つ負担で書くことを嫌になる。評価では、平仮名を読み、書いているかを、見本と比べた線や平仮名、書きやすくなった姿勢や道具の記録と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

5 指導と評価の計画（全1時間）

第1次 第1時（本時）：○誰に何を伝えるかを確かめ、書く材料や最初の文を出す。机と体の位置、紙と鉛筆の持ち方を教師と確かめる。教材の見本を手元で見て線や平仮名を書き、始まりと終わりを比べる。対象の言葉や文字をもう一度使い、確かめたことが別の例でも生かせるかを試す。 評価：知①（発言・活動中の記録・作成物）

6 本時の指導 (1/1)

(1) 本時の目標

平仮名を読み、書くことができる。〔知識及び技能〕(1)ウ)

(2) 学習過程

【導入】

学習活動：誰に何を伝えるかを確認め、書く材料や最初の文を出す。

○「見本と自分の書いた線を比べ、どこを確認めたいですか」

【めあて】姿勢や鉛筆の持ち方を確認め、平仮名を書くための線や字形に親しむ。

予想される児童の反応：・書き始める場所を確認めたい。

指導上の留意点：最初の言い方や記録を残し、授業後の考えと比べられるようにする。正答を先に示さず、扱う言葉と課題を確認する。

【展開】

学習活動：○「見本と自分の書いた線を比べ、どこを確認めたいですか」

机と体の位置、紙と鉛筆の持ち方を教師と確かめる。教材の見本を手元で見て線や平仮名を書き、始まりと終わりを比べる。

対象の言葉や文字をもう一度使い、確かめたことが別の例でも生かせるかを試す。

予想される児童の反応：・書き始める場所を確認めたい。

・紙を押さえると線を書きやすい。

指導上の留意点：漢字や片仮名は扱わず、当日の教材の線や平仮名を対象にする。運筆の困難には太い筆記具や補助具を用い、持ち方の外見だけで評価しない。

想定する難しさ：見本の始点を見ずに動かす、姿勢を保つ負担で書くことを嫌になる。

評価では、平仮名を読み、書いているかを、見本と比べた線や平仮名、書きやすくなった姿勢や道具の記録と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

評価：知① 平仮名を読み、書いている。(発言・活動中の記録・作成物)

【まとめ】

学習活動：【まとめ】問いへの答えを、今日確かめた言葉や表現を含めて話す。

見本と比べた線や平仮名、書きやすくなった姿勢や道具の記録を見返し、初めと変わった点や、そのまま残した理由を確認める。

予想される児童の反応：・紙を押さえると線を書きやすい。

指導上の留意点：教師のまとめを写すだけにせず、本人が選んだ言葉と理由を確認める。態度は本時だけで決めず、単元を通した取り組みと調整の記録を合わせて判断する。

評価：態① (最初と最後の記録、見直しの理由)

(3) 板書計画 (縦書き・右から左へ)

縦書きで、右から左へ学習の流れを配置する。右端に題名とめあて、その左に問い「見本と自分の書いた線を比べ、どこを確認めたいですか」。中央は、見本と比べた線や平仮名、書きやすくなった姿勢や道具の記録に必要な言葉・材料と、考えた理由を対応させる。本文を扱う場合は先生が手元の教科書から必要な範囲を示す。左側に比べて気付いた点と見直した箇所、左端に本時で確かめたことを置く。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)

https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

